



委員会では議会閉会中も案件の審査・調査を行う委員会。その活動内容をお知らせします。なお、詳しい内容については播磨町議会ホームページに掲載しています。

総務建設

「コミセン」便導入に向けて

■9月29日開催

コミバス導入検討業務

7月に引き続き検討状況の報告を受けた。定時定路線型の10人乗り車両を想定し、来年度中の実証運行開始を予定。

【主な質疑応答】
問 交通不便地の定義は。

答 バス停などを中心とした半径200mの円が重ならない地域を指す。

問 議会の意見などは地域公共交通会議に提示しているのか。

答 報告していない。意見などを地域公共交通会議に示すことは、会議の運営となるので会長と協



▲完成が待たれるBIVI土山

議してみる。

■10月30日開催

まち・ひと・しごと創生総合戦略策定

8月に引き続き総合戦略の説明を受けた。人口減少や地域経済縮小の克服と好循環の確立をめざし、基本目標や施策を取りまとめていく。

土山駅南交流スペースに関する条例(骨子)

情報提供や案内、住民及び来訪者の利便や交流を図る目的で制定する。

■11月12日開催

マイナンバーの利用に関する条例

個人番号の適切な取扱いと地域の特性に応じた施策の実施に必要な事項を定める目的で制定する。

播磨町国民保護計画の平成27年度修正

武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律などに基づく修正で、新旧対照表などの提示を受けた。

厚生教育

「認知症」の早期発見を

■10月23日開催

物忘れプログラムの利用状況

物忘れプログラムの設置場所やテスト内容、利用状況の説明を受けた。役場、中央公民館、各コミセン、地域包括支援センターなどに8台設置している。結果を早期相談

へつなぐためプリント裏面に関係機関の紹介をしている。

【主な質疑応答】

問 外出しにくい高齢者にも受けてもらう取り組みは。

答 地域包括支援センターで家庭訪問の際に機械を携帯し、チェックができるようにしている。操



▲利用中の物忘れプログラム

議会運営

先進議会を視察

■10月14日視察

福井県永平寺町

議会と語ろう会(議会報告会)など
議会および議会報告会の活性化を図る観点から、住民と議会の対話と「ミニユニケーション」議会と語ろう会」の運営について

視察。
住民の身近な話題をテーマにし、その内容を議会だよりの特集ページに掲載。あわせて当日配布する資料をホームページに事前掲載している。「事務事業評価」の取り組み経緯と効果については、議会が町の事業を

■10月15日視察

滋賀県大津市

議会ICT化事業など
ペーパーレス化による経費節減・環境への配慮。情報伝達の即時化、過去の資料もタブレットで見られ、利便性が高まることとして議会運営の効率化を

目的に実施。

議会業務継続計画を策定する目的は、災害時における初期対応の高度化が図られ、審議や執行部へのチェック・監視など議会としての機能維持を図る。

議員は、携帯ハンドブックと安否状況確認カードの常時携帯。非常時には、議会業務継続計画に基づき対応する。



▲議会のペーパーレス化を視察(大津市)

広報公聴

「伝わる広報紙」へ

■10月20日・21日

町村議会広報研修会

本研修会では3名の講師の講演を受けた。文章をわかりやすく書くテクニックとして次の3点に要約できる。
①見やすい文章を書くためには、図表やイラストを配置し漢字を少なくす

る。改行や空白を作り短く簡潔にしてビジュアルを大切にす。

②読みやすい文は一文を30字内に。
③結論を先にしてわかりやすい文章に。

また、優良議会広報クリニックでは、最優秀賞・優秀賞受賞紙を審査方針に照らしながら評価内容を

の説明を受けた。説明の中で感じたことに、編集体制として住民のアドバイザーや広報モニターなど11人がかかわっていることがある。また、写真の提供など住民と一緒に取組んでいることがあげられる。

思わず手に取り、読みたくなるような議会だよりを目指して頑張る指針となる研修会であった。当委員会では、「議会だより」の発行にあたり、

今まで議会を身近に感じられ、わかりやすく楽しんでいただける紙面を目指している。住民との一体感も紙面に取り入れた。これらのことはどこの議会でも永遠のテーマであると思われる。



▲「伝わる広報紙」研修中